

ミサワホーム代表JVに

ホテルなど4棟建設へ



商業施設やホテルなどビル4棟の建設計画が明らかになったJR三島駅南口の東街区=三島市一番町で

三島市のJR三島駅南口東街区の再開発事業で、ホテルとマンションを備えた九九・五層の建物など四棟を建設する提案を市が選んだことが、市や関係者への取材で分かった。市と地権者らでつくる準備組合は、提案者であるミサワホームを代表とする共同企業体(JV)との協議を経て、五月に協定を結び正式決定する(以下)としている。(佐久間博康)

5月に協定、21年着工

東街区は駐車場になっている市有地と民有地の計一・三畝。建設する四棟の建物のうち最も高い北棟は、ホテル百室とマンション約二百戸を備え、二十四階建て、九九・五層となる。南棟は十三階建てで商業施設とマンション八十戸超が入居する。西棟は四階建ての商業施設となる。東棟は商業用とマンション住民用の七階建て立体駐車場で六百二十六台を収容する。

商業施設は、医療機関やスポーツジム、レストラン、シェアオフィス、食品販売店などが入居する。二〇二二年に着工し、四年半かけて建設する計画で、総事業費は二百二十億円。一九九七年に国鉄清算事業団から用地の払い下げを受けて再開発計画が始動。リーマン・ショックや東日本大震災の影響で業者が撤退するなど二十年にわたって塩漬け状態となっていた。

東街区 市が事業協力者選定

三島駅南口再開発

西街区

建設中断 東急のホテル



東急がホテル建設を進めている西街区。ホテル開業は当初計画から2カ月遅れ2020年6月にずれ込むことになった=三島市一番町で

契約結び直し工事再開

五輪前の20年6月開業予定

たことが、事業主体の東京急行電鉄への取材で分かった。ホテルの開業は二〇二〇年六月を予定。当初予定より二カ月遅れるが、目標としていた同年七月の東京五輪開幕前には間に合う見通しとなった。

西街区の再開発事業は、市土地開発公社の土地(一番町、〇・三四畝)を買収した東急が地上十四階建て二百室のホテルを整備し、二〇二〇年四月の開業を目指していた。東急によると、当初は清水建設と戸田建設の共同企業体(JV)が建設する予定だったが、金額などの条件面で折り合いがつかず、準備工事を終えた段階でJVが解散。今年二月から工事は中断していた。

東急は業者の再選定を行い、三月下旬に清水建設と契約を結び直し、同社は既に工事に着手している。

従来のJVにも参加していた清水建設と契約を結んだため、ホテルの施設内容に変更はないものの、完成時期が当初予定の二〇二〇年三月から同年五月にずれ込み、それに伴い開業も二カ月遅れる見通しという。

東急の広報担当者は「当初発表した計画より遅れてしまい申し訳ない。それでも三島市と約束していた東京五輪の二〇二〇年七月までの開業に間に合うよう立ち上げた。無事に建設工事を進めて三島に貢献したい」と語った。

市と市土地開発公社は東急からの基本計画変更の申し出を受け、三月二十三日に変更を承認した。市三島駅周辺整備推進課の担当者「予定より遅れたが、契約の時期には間に合うと聞いてほっとしている。順調に

た。市は集合住宅や駐車場、医療機関などを入居させる条件で、昨年十一月から自由な発想のフリープランで事業協力者を公募し、五業者が応募。ミサワホームのJVはほかに東レ、野村不動産などで構成している。

東街区の再開発事業をめぐっては、川勝平太知事が昨年十二月に「地元の理解が不十分だ」として見直し、延期を求める発言をしていた。市は地権者の高齢化などが進む中、周辺地価も上昇するなど開発に向けた最後の好機として、事業推進の姿勢を示している。

工事を進めてもらいたい」と話した。(佐久間博康)

三島市のJR三島駅南口西街区の再開発事業で、建設業者の撤退により今年二

月から中断していたホテル建設事業が、新たに業者と契約を結び直して再開され